

環境目標 2 くまもとの風土を活かした都市をつくる

2-1 歴史文化をまもり、育てる

基本目標

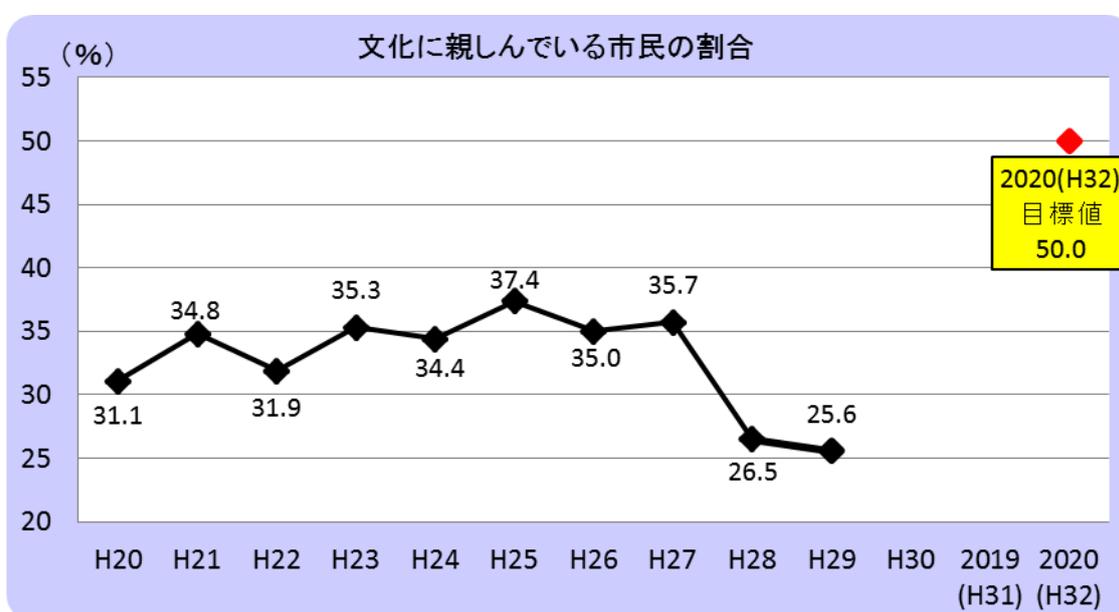
歴史的文化遺産や自然などの環境資源を活かした、魅力あふれるまちをつくる

取組の方向性

- 史跡などの歴史的文化遺産を保護し、適正な保存整備を進めます。
- 復元整備を進めている熊本城を核とし、本市の自然環境などを活かした観光資源の更なる魅力の向上を図ります。
- 環境分野の新産業や環境負荷の低減に努める農水産業を支援します。

成果指標

項目名	基準値 平成 20 年度	実績値 平成 29 年度	目標値 2020 年度 (平成 32 年度)
文化に親しんでいる市民の割合	31.1%	25.6%	50.0%



新規事業として、復興映画祭や東京キャラバン in 熊本を開催したものの、文化に親しむ市民の割合が低下しました。今後は、熊本地震で被災し、閉鎖等になっている施設の早期復旧とともに、再開した施設において文化に触れる機会の創出に努めていきます。

2-1-1 歴史的文化遺産等を保護し、継承する

平成29年度 取組の実績

●史跡等文化財の保存と整備

被災文化財を中心に調査を実施し、市所有の文化財については順次復旧を実施しました。民間所有の文化財については復旧に関わる補助制度や復旧方法について説明し、一つでも多くの文化財が保存されるよう努めました。

無形文化財については熊本市郷土文化財保存活動事業費補助金を活用し、保存・継承を支援しました。

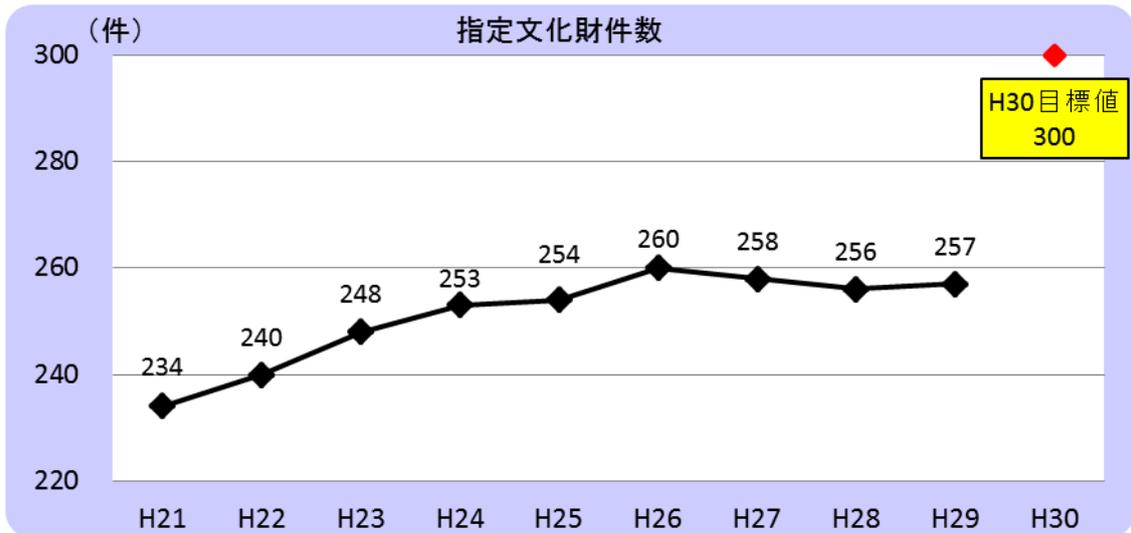
●熊本城を地震前の姿に復旧整備する

平成9年に策定した熊本城復元整備計画に基づき復元整備に取り組んできましたが、平成28年熊本地震により熊本城は全域的に甚大な被害を受けました。平成29年度は、その熊本城全体の復旧に係る具体的な方針や施策及び取組を体系的に定め、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくための熊本城復旧基本計画を策定しました。



成果指標

項目名	基準値 平成21年度	実績値 平成29年度	目標年	目標値
熊本城復元整備基金への募金額（累計）	3億8千万円	10億円	—	—
指定文化財件数	234件	257件	平成30年度	300件



熊本城復元整備基金への寄附制度である新一口城主制度は、平成 28 年度に発生した熊本地震により休止となりました。その後、「熊本城災害復旧支援金」「復興城主」制度を立ち上げ、それぞれ、平成 29 年度で、2 億 5 千万円（熊本城災害復旧支援金）、7 億 5 千万円（復興城主）の寄附がありました。

指定文化財件数については、旧城南町、旧植木町の指定文化財の調査を実施し、市指定を実施する予定でしたが、平成 28 年熊本地震を受けて、滅失の恐れや修理の必要のある未指定文化財について指定を急ぐよう方針を転換しました。今後は被災文化財を中心に指定を増やしていく予定です。

今後の課題

◎史跡等文化財の保存と整備

文化財等の調査や保存に関しては、復旧に関わる文化財担当者が不足しており、各分野の専門性を持った職員が十分に配置できていません。

◎熊本城を地震前の姿に復旧整備する

短中期的には石垣・建造物等の文化的価値保全と計画的復旧に取り組むこととなります。また、その復旧過程の積極的な公開を図っていく必要があります。



市庁舎 14 階より
天守閣を望む

2-1-2 環境資源等を活かした産業を育てる

平成29年度 取組の実績

●歴史や文化を活かした観光の振興を図る

植木温泉エリア・水前寺エリア（水前寺成趣園周辺）の2つの地区の活性化を目的に地域住民と協力し「WAのあかり」を開催しました。

本市の水にかかわる自然、歴史、風習、人物、芸術など有形または無形の資源を「熊本水遺産」として登録、顕彰することにより、本市の水資源について保全の意識を高めるとともに、その魅力を内外に発信しました。（平成29年度末 92件登録）

水や水にまつわる文化を守り、水の魅力をPRする方々を「くまもと水守」の愛称で登録し、水守を通じた人材育成や情報提供を行うことで、本市の魅力を発信しました。（平成29年度末 189名登録）

●環境と調和した産業を支援する

環境保全型農業直接支払事業による化学肥料・化学合成農薬の使用量削減や有機農業の取組、更には熊本県の地下水と土を育む農業育成事業を活用した適正施肥を推進しました。

また、施設園芸における取組として、省エネ効果の高い施設・機械等の導入を支援し、燃油使用量の削減を推進しました。



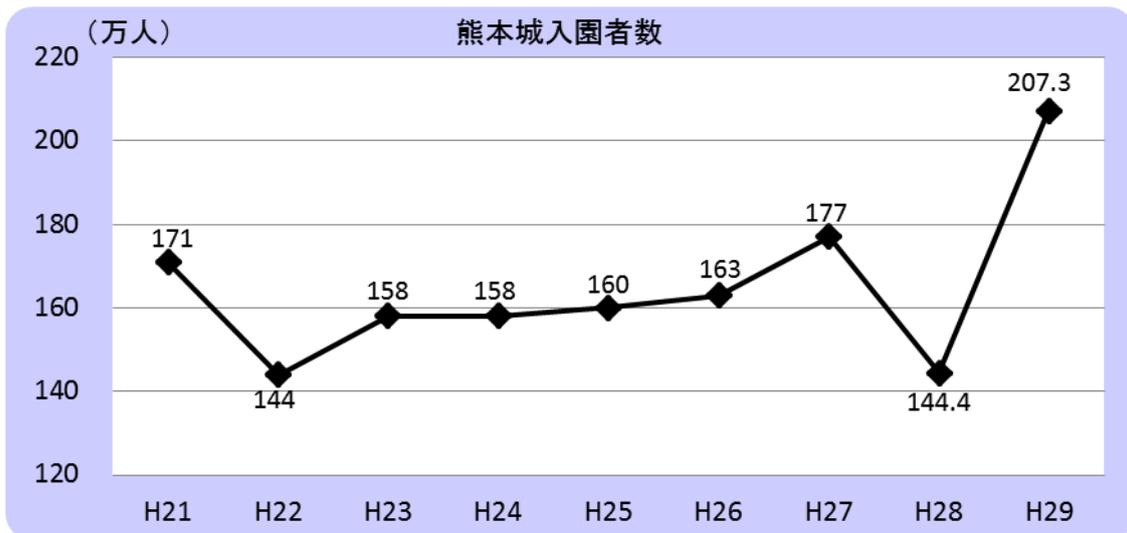
植木温泉エリアの「WAのあかり」



省エネ効果の高い設備が導入されたビニールハウス

<参考指標>

項目名	基準値 平成21年度	実績値 平成29年
熊本城入園者数 (※平成28年5月以降は二の丸広場の入園者を カウント)	171.0万人	207.3万人



※ 平成 21～27 年度の数値は有料区域への入園者数です。

平成 28 年 5 月 12 日より有料区域への入園者数に替わり、二の丸広場の入園者数をカウントしています。また、平成 28、29 年の数値は 1～12 月までの数値です。

平成 28 年熊本地震により天守閣等の有料エリアは閉園中であり、地震直後は大幅に入園者数が減少しましたが、平成 29 年(1 月～12 月)の二の丸広場への入園者数は 207.3 万人となり、地震前とカウント方法等が違い単純な比較はできませんが、地震発生前の数値を上回る結果となりました。

今後の課題

◎歴史や文化を活かした観光の振興を図る

新たな観光資源を、本市の魅力あるものとして開発していくためには、各地域と協力して観光ルートの開発や PR を行っていく必要があります。

熊本水遺産等の活用により、水に関する歴史や文化、食、風習など、本市の魅力を後世に伝えるとともに、水を生かした都市ブランド力を高めるため、更なる PR を行う必要があります。

「平成の名水百選」や「熊本水遺産」をはじめとした恵まれた水資源の保全と、世界に誇る地下水都市の魅力を発信する担い手の育成を推進するとともに、くまもと水守などの活動の場を創造する必要があります。

◎環境と調和した産業を支援する

平成 31 年 4 月から稼働予定の東部堆肥センターを活用した家畜排せつ物の堆肥化を推進するとともに、生産される堆肥の耕種部門への流通等について、JA 等の関係機関と連携し引き続き協議していく必要があります。

また、施設園芸部門では、地球温暖化防止及び農家経営安定を図るため、燃油使用量の削減を更に推進していく必要があります。

2-2 魅力ある都市空間をつくる

基本目標

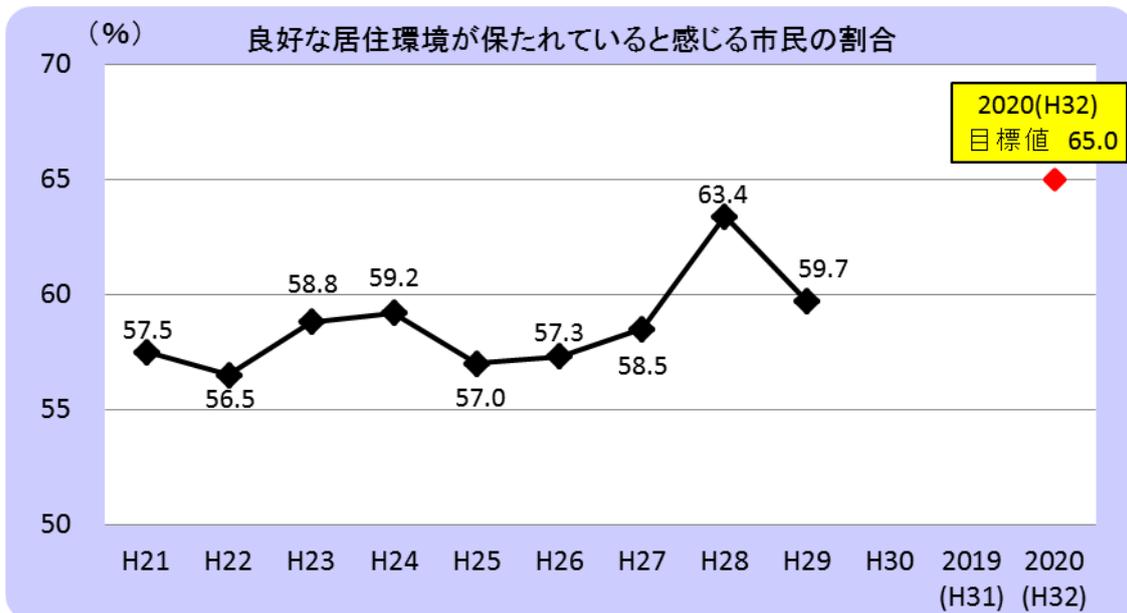
良好な景観を次世代に継承し、魅力ある都市空間を形成する

取組の方向性

- 地域の特性に即した都市景観の保全、育成、創造を図ります。
- 緑化や市民の憩いの場である公園の適切な維持管理と計画的な整備を行います。
- 緑化の推進や住環境に配慮した、安全で快適な道路環境を確保します。
- 建築協定制度の活用などによる良好な居住環境の誘導に努めます。

成果指標

項目名	基準値 平成 21 年度	実績値 平成 29 年度	目標値 2020 年度 (平成 32 年度)
良好な居住環境が保たれていると感じる市民の割合	57.5%	59.7%	65.0%



良好な居住環境が保たれていると感じる市民の割合については、これまで順調に推移していましたが、平成 29 年度は工事業者の人員不足等による熊本地震からの復旧の遅れの影響もあり、前年度との比較で 3.7 ポイント減少しました。地震からの復旧及び復興に向けた取組を実施していくとともに、住生活基本計画における施策を推進していく必要があります。

2-2-1 自然や歴史を活かした都市景観をつくる

平成29年度 取組の実績

●地域の特性に即した都市景観の保全、育成、創造

景観法に基づく大規模行為の届出（244件）、特定施設届出地区行為届出（15件）、景観形成地区行為届出（1件）に対し、景観計画に定める景観形成基準に適合するよう必要に応じ指導等を行いました。

屋外広告物条例に基づく許可（新規305件、更新555件）を適切に行いました。

また、約2,600件の違反屋外広告物の撤去を行いました。



水前寺周辺地域の眺望景観の保全

今後の課題

◎地域の特性に即した都市景観の保全、育成、創造

違反広告物については、指導により一時的に改善されても再度設置されることも多いため、今後も啓発活動や是正指導を継続します。

2-2-2 市民の憩いの場となる公園を整備する

平成29年度 取組の実績

●市民の憩いの場である公園整備と維持管理

既設公園の安全安心事業として、老朽化が進んだ遊具等の公園施設を更新しました。

また公園の環境を良好に維持することを目的の一つとして、地域住民の方が公園の管理に参画していただく協働事業（公園協働地域業務委託事業）を継続実施しています。



修繕前



修繕後

健軍新土井西公園（2連鉄棒）



修繕前



修繕後

秋津東公園（ブランコ）

今後の課題

◎市民の憩いの場である公園整備と維持管理

地域の憩いの広場や子どもが遊べる公園を充実させていくとともに、地域や民間との連携による新たな公園づくりや管理・運営の方法について検討していきます。

2-2-3 安全で快適な道路環境を確保する。

平成29年度 取組の実績

●道路網の構築と、安全で快適な道路の実現

平成29年7月に城南スマートインターチェンジが開通しました。

自動車専用道路である熊本西環状道路については、池上工区（池上IC～花園IC）において事業を実施中です。

また、市道昭和町山ノ神1丁目第1号線の一部において歩道整備を実施しました。



城南スマートインター



熊本西環状道路
池上工区花園高架2号橋



改修前



改修後

市道昭和町山ノ神1丁目第1号線

今後の課題

◎道路網の構築と、安全で快適な道路の実現

幹線道路整備や交通安全対策などを実施していますが、限られた予算の中、更なる選択と集中を図り、効率的、効果的に事業を実施していく必要があります。

2-2-4 事前配慮の仕組みをつくる

平成29年度 取組の実績

●良好な居住環境の形成

熊本県地球温暖化の防止に関する条例に基づく建築物環境配慮計画書の届出は53件で、結果を熊本市ホームページに随時公表しました。

●環境配慮の仕組みをつくる

住宅用地以外の開発において、雨水浸透マンホールの設計を指導し、286基が設置されました。

開発許可の技術基準に基づき、開発区域内の緑化の指導を行いました。

熊本市公共事業環境配慮指針の運用により、市が実施する公共事業において、環境負荷の低減、自然環境の保全及び歴史的・生活環境の保全のための配慮を行いました。

(公共事業環境配慮評価会議への付議案件：3件)

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建築物概要		■ 詳細	
建築物名称	(仮称)白川公園内環状歩道新築工事	階数	地上7F
建設地	熊本県熊本市中央区東黒瀬1番1号	RC造	
建築地積	0地域	平均居住人員	290人
気候区分	0地域	年間使用時間	4,687時間/年
建築物用途	歩道施設(歩道)	評価の用途	建築物設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2017年8月9日
延床面積	2,695㎡	作成者	藤原 雄代子
建築費	389万円	確認日	2017年8月9日
延床積算費	2,272円/㎡	確認者	伊藤 正太郎



2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点
★★★★★	87

評価点 ■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】建築物雨水排出率削減の達成

判定値(評価点) ランク表示



建築物環境配慮計画書(市ホームページ掲載)

雨水浸透マンホール

今後の課題

◎環境配慮の仕組みをつくる

開発事業主による浸透マンホールの維持管理が適切になされないため、浸透能力が低下する恐れがあります。また、緑化についても、開発事業主による適切な維持管理がなされないことにより、緑化の目的が確保できない恐れがあります。

熊本市公共事業環境配慮指針について内容をより判りやすく改訂し、掲載の環境配慮技術の更新についても、関係各課との継続的な検討を行っていきます。